

---

# ある盾の物語

青騎士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある盾の物語

### 【Nコード】

N0145H

### 【作者名】

青騎士

### 【あらすじ】

人間と魔獣が共に存在する世界。人間は、魔獣との生存競争を繰り広げてきた。そんな世界にある学園。「王立カナリス武芸学園」この学園から物語は始まった。

## 0話：プロローグ

中型魔獣タイロス、一言で言うとサイに近い魔獣である。ただその額には2本の鋭い角が生え、身体には鉄板のような頑丈な鱗があり、体長が5mはあるという点を除けばの話だが。

この魔獣は角獣型2種に分類される。く型は生息形態や生体構造により分類され、く種はその魔獣自身の強さを表し、種に近づくほどその強さは上がっていく。

例えば角獣型2種は、角獣型3種には勝てるが、巨獣型3種には負けるという具合である。

「ッ！！！！！」

そんな屈強な魔獣が、今まさに1人の少年に2本の角を突き立てようと突進を仕掛けている。

対する少年は長方形の盾を構えている。タイロスの突進は10cm程度の鉄板なら、軽く穴を開けるほどの威力を秘めている。少年の盾は、そんな攻撃を受けるために造られた強靱な物だった。厚さ10cmの鉄の5倍の硬度を持つ魔法科学の産物「マギナクロム」を使い、少年の背丈と同等の大きさを有するその盾は、少年の身体には余りにも巨大なものだった。

タイロスは土煙をあげて、一直線に少年を目掛けて来る。

既に躲すことは不可能。いや、元から躲すことなどその身体には宿していない。ただ、その身で受け止める。それが少年に課せられた使命だから。

名は、アルト＝ソロ。

目前まで迫り来る双角。その周囲にいるだけで、身体を粉々の肉片に変えられる様な錯覚を覚える。恐怖を脳髄に叩き込まれる。足が震え上がり、奥歯が力チ力チ音を鳴らす。

それでもアルトは引かない。絶対に引くことが許されない。

「来るッ！！」

タイロスの双角が当たる直前、盾から魔方陣が展開される。その数は3つ。三重の魔方陣。

無属性防御型魔方陣

【守りの円環】

三重展開

ガギンッという鈍い音がする。その刹那、盾を持つ両腕に一気に重さのしかかる。身体が押されて後ろに引きずられる。

「ッ　　！！」

化物の雄叫びが聞こえる。自分が押し勝っていることを鼓舞する様な雄叫びが……

フザケルナ。

その瞬間、アルトは体勢を立て直し、盾をタイロスに押し付ける。魔力の激流が盾に流れ込む。ながれこむ。ナガレコム。

バキンッ

盾が負荷に耐え切れず決壊する。もう保たない。“また”割れる。止め切れない。

ドカンッという魔方阵の崩壊による、爆発が起こる。

衝撃により、アルトは壁に叩き付けられた。しかし、タイロスにも確実にダメージはあり、身体は焦げ、突進が止まった。

さあ、隙ができたぞ

意識が朦朧とする中、アルトは仲間たちが飛び出して、トドメを刺す影を見ていた。

ブザーがなり、戦闘訓練終了の合図を告げる。

この戦闘訓練の最優秀者は、火属性上級中距離型魔法【焰蛇の毒牙】を使ったダイルククローツェルだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0145h/>

---

ある盾の物語

2010年10月25日18時01分発行